

写真で見る30年前の四谷通・山手通境界

学生の大学生活の場といえば、もちろん第一にはキャンパスですが、卒業生にとってはその周辺の街で過ごした時間も思い出深いのではないのでしょうか。しかし、当時の地図はあっても、写真となるとなかなか残っていないものです。卒業アルバムにもそういった写真は意外に少ないのです。

その中で1988(昭和63)年の生協卒業アルバムは、本山から東山キャンパス付近にかけての四谷通・山手通境界の写真が、ある程度まとまって掲載されている

数少ない例です。写真にはキャプションが付いておらず、どこにあった店や建物なのか分からないものも少なくありません。それでも、当時のこの境界の雰囲気や、現在に至るまでに景観がずいぶん様変わりしたことを感じ取ることができます。

当時は、本山から東山キャンパスまで地下鉄が通っておらず、毎日のように多くの学生たちがその間の道を歩きました。それだけに、この境界への思い入れもひとしおなのではないかと思えます。



- 1 本山交差点の服部本山ビル。このビルには本山ボウルのほか、松坂屋ストアが入っていたが、現在はマックスバリュ等が入り、ビルの外観も大きく様変わりしている。
- 2 当時の名大生は、服装等の垢抜けなさから「本山原人」とも呼ばれていたと言うが、すでにその頃の四谷通にはファッションビルが多かった。もっともアルバムには、「この辺りのファッションビルには緑のない人が多かったりして(笑)」などと書かれている。
- 3 現在も四谷通に面して建つ桃巖寺。現在、真緑の「名古屋大仏」がちょっとした観光スポットになっているが、この大仏は1987年に建立された。
- 4 四谷通3丁目交差点にあった、名大生愛用(?)のタバコ屋「若葉」。現在はマンションになっている。このタバコ屋のすぐ近くにあったサークルKも今はない。
- 5 鏡ヶ池北の鏡池通にあった名大生のたまり場(?)、喫茶店「ミヤ」、麻雀店「龍」、理容店「カミヤ」。現在はマンションが建っている。
- 6 山手通1丁目交差点の南、山手ビルの1階には飲食店等が並ぶ。ブロンコビリーは、現在はハンバーグ専門店「ハロキ」になっている。そば屋「大桐」とローソンは今も健在。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む



名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office (DO室) まで(電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp) にお願いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

名古屋大学基金 <http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/> アクセスはこちらから▶

特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。

